



2008～09 年度  
国際ロータリー会長

李 東 建

# Weekly Report Niigata



2008～09 年度  
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 10 月第 2 例会 (2008.10.14) No.2772

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

新潟クラブでは今までに多数の留学生のお世話をしてきました。受け入れた一年交換学生 22 名、派遣した一年交換学生 25 名、派遣した R 財団国際親善奨学生 22 名、受け入れた米山奨学生 31 名にのびります。新潟クラブは長い歴史と伝統のもと積極的にこれらの学生のお世話をしてきたのですが、たとえば学生を受け入れる場合のノウハウ特に危機管理的視点での対応の仕方などに関しての蓄積されてきた経験が豊富に存在するにも拘らず、それらが文書化されることも無く経過してきました。新しく学生を迎え入れる度にその都度関連する委員会の委員長が一から対応策を考えなければなりません。つまり経験を効率的に生かす事が出来ていないのです。大変もったいないことです。留学生に関する私自身のつたない経験から言っても、ノウハウをクラブの財産として残していく必要性を痛感しています。

また、留学生の問題に限りませんが一般にロータリークラブでは危機管理的発想が希薄であるようです。「多分大丈夫」ではなく「もしかして」のスタンスで常に最悪の場合を想定し、万一異常事態が発生した場合はクラブとしてシステムチックに対応できるような態勢を構築しておく必要があるように思います。

ロータリー財団へのご寄付の一部あるいは米山記念奨学会に対するご寄付などが奨学生をお世話する際の原資になっています。国際理解、友好、親善に大きな貢献をしているこれらの事業にご理解を頂き R 財団、米山記念奨学会へ絶大なご支援をお願いいたします。

(3) 委員会報告

・大前 淳二親睦委員長  
来週 10 月 21 日は月見例会です。  
イタリア軒にて 18:00 登録 18:30 開  
会です。奮ってご参加下さい。

・石井 和弘職業奉仕委員長  
10月28日例会終了後 東北電力東新潟火  
力発電所へ職場訪問致します。大型バスの  
用意を致しました。是非、ご参加下さい。

・石川 治壺ライラ委員長  
9月27～28日 新潟万代 RC のホスト  
によるライラ研修に新潟 RA メンバー2名  
と参加致しました。プログラム内容は工夫が  
あり充実した研修でした。懇親会も楽しく過  
して参りました。

(4) 幹事報告 (山田 隆一幹事)

・10月7日前橋RC55周年記念式典に山本豪平元  
会員、横山 PG 柴田会長など8名で参加して参りま  
した。

・本日の例会終了後、朝日の間で「クラブアッセンブ  
リー」を開催致します。各委員会の活動について中  
間報告会を行います。

(5) 卓話「トキ再び佐渡の空へ」

元トキ保護センター長 近辻 宏婦氏

10月21日の例会予定

「月見夜例会」

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

## 米山月間

米山奨学委員長 姉崎 良記

「留学生への支援」

我が国におけるロータリー米山奨学事業は、ロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し支援する国際奨学事業です。

ロータリー財団の国際奨学制度を模して、アジア諸国から奨学生を招致しようというのが目的でした。

この事業は日本の全ロータリアンが参加する多地区合同奉仕活動であり、今では年間 800 人の奨学生を受け入れ、これまでに 113 カ国 14,500 名に奨学金を支給し世界に送り出してきました。国内では最大の民間奨学事業です。

この事業の大きな特長は、経済的支援だけでなく「世話クラブ・カウンセラー制度」を設けて奨学生の精神面のケアを図っていることです。また奨学生には毎月 1 回例会に参加することが義務づけられており、奨学金もそこで手渡されます。

そのほかにも、奨学生には例会で母国のことや自分の研究について卓話したり、クラブの奉仕活動、交流会に参加したりと、ロータリー活動を通じて日本文化や地域社会と触れ合うさまざまな機会が提供されます。

現在、第 2560 地区には県内 7 大学に 17 名（男性 9 名、女性 8 名）の奨学生が在籍しており、出身国もアジア中心にヨーロッパやアフリカにまで及んでいます。（注）新規受入学生のみ。

新潟ロータリークラブでも 1968 年から奨学生の受け入れを開始しており、過去 30 名の米山学友が母国に帰り、あるいは日本や世界で活躍しています。

今日の世界情勢や日本の置かれている状況を考えるとき、民間の国際貢献はますますその重要性を増しています。今後とも寄付行為を通しての事業への参画にご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。